

教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会
学校教育部教育指導課
平成24年10月31日発行
VOL. 8

外国語活動サポーター研修会報告

9月21日（金）柏野小学校にて第2回小学校外国語活動サポーター研修会を実施しました。中学校の先生を招いてのTTでの授業を参観後サポーター間での協議を行いました。

協議では、各小学校の外国語活動の様子や授業における担任とサポーターのかかわり方、より効果的な指導方法などについて具体的な内容が取り上げられました。例としては、事前打ち合わせの時間確保や担任とサポーターの（メインで指導する）時間の配分のしかた、学校やクラスごとの児童の実態を考慮した指導方法のアレンジの仕方があげられていました。また、外国語活動の授業での学習内容を行事の発表や日常生活場面に生かして指導している例など、各校で積極的に取り組んでいる様子が紹介される一方で、様々な課題もあげられています。

各サポーターは複数の学校で授業のサポートをしており、様々な取組を経験しています。打ち合わせ等の時間を活用して、サポーターから積極的に情報を引き出すことで、自校の活動の活性化につながります。

次回は、2月開催予定の小学校外国語活動研究協議会とあわせて開催する予定です。



第3回学力向上プロジェクト推進委員会報告

10月1日（月）に、第3回学力向上プロジェクト推進委員会を開催しました。

本委員会では、標準学力検査、全国学力・学習状況調査、学習状況調査の分析結果に基づき、確かな学びを実現するために、9年間を見通した各教科等における系統性や、学校間の円滑な接続を考慮した各学校の学習活動や学び方のスタンダードを示した「学習活動モデル」、「学び方モデル」の作成作業を行っております。

第3回の委員会では、推進委員及び研究モデル校の研究担当者が、国語科部会、算数・数学科部会、外国語部会に分かれ、それぞれの教科における「学習活動モデル」、「学び方モデル」の発表がありました。

各学校において、子どもたちが、先生方が、今の学び、これまでの学び、これからの学びを必要に応じて手軽に確かめることができるように、義務教育9年間を見通したモデルを作成し、発信していきたいと考えております。



コラム：防災教育（②）

平成24年7月に「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」の最終報告が出されました。

一つの災害だけではなく、その後の二次的に発生する危険にも対応することを踏まえ、次の提言内容を各園・学校における防災教育を検証する一つの視点としてご参照願います。

【主な提言内容】

- 防災教育の指導時間の確保に向け、主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成する観点から、児童生徒の発達の段階を踏まえた系統的・体系的な指導を行うことが必要。
- 特に津波災害については、東日本大震災の教訓を踏まえ、地域の特性に応じ、様々な場面や状況を想定した上で、津波避難マニュアルを作成し、訓練を実施していくことが必要。
- 教職員の被災など、想定以上の災害が発生した東日本大震災における事例も考慮し、臨機応変に対応できる組織の在り方が求められる。
- 引き渡しのルールや避難所の開設・運営については、あらかじめ、保護者や地域住民と連携を確立させることが必要。
- 防災マニュアルの作成に当たっては、保護者・地域住民、関係機関等の協働により作成するとともに、訓練の実施結果等に基づき、常に見直しを行うことが必要。

「笑顔キラリ!!! 私たちの宝物」について ～園・学校・研究サークル取組紹介～

季節も秋から冬へと変化が著しい時期となっております。各園・学校におきましては、特色ある教育活動が行われていることと思います。

平成24年7月20日事務連絡においては、2学期終了後、新たな取組を募集するとお知らせしましたが、2学期終了を待たずに、新たな掲示を行いたいと考えております。

つきましては、既に各園・学校において作成された掲示物がございましたら、提供いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いたします。